

1
物語(1)

確認問題

- 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

参考用

/

	(1)	(2)	(3)
	①	※	①
	②		②
	③		③

□(1) に入る最も適切なことばを次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(同じことばは二度選べません)

ア やがて イ いつも
ウ まるで エ もつと

□(2) に入る最も適切なことばを次から選び、記号で答えなさい。

ア 知らない少年と友だちになつた
イ 自分もおどろくほど大きな鯉を見ることができた
ウ 自分が一人前にあつかわれた
エ 見知らぬ少年と秘密を共有した

□(3) 線①「僕、こんなごつつい鯉、初めて見たわ」を次のように書き直したとき、□に入ることばの組み合わせとして適切なものを、あとから二つ選び、記号で答えなさい。

〈僕①、こんなごつつい鯉②、初めて見たわ。〉

ア ①が・②は イ ①は・②を ウ ①が・②を
エ ①が・②が オ ①は・②は

□(4) 線②「踵を返す」ということばの意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア にらみ返す イ 念をおす
ウ 引き返す エ 恩をあだで返す

	(5)	(6)	(7)
	①	②	①
	③	④	②
	⑤	⑥	③

□(5) 線③「でっかい鯉を釣つてみたいわ」とあります。こう言つたときの信雄の気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 土佐堀川で見た大きな鯉を思い出し、何としても自分のものにしたいという気持ち。

イ 大きな鯉を見たことを話しても、どうてい信じてもうそそうにないので、自分でつかまえて父に見せたいという気持ち。

ウ 今日見た鯉の話をすることで、停電のおそろしさをまぎらそとする気持ち。

エ 川で見た鯉について言いかけて、少年との約束を思い出し、父にさがらないように、話をそらそととする気持ち。

□(6) 本文中には、会話の部分がもう一か所あります。①その一文をさがし、最初の六字を書きぬいて答えなさい。また、②それはだれの言つた言葉ですか。本文中から二字で書きぬいて答えなさい。

（①）
（②）

□(7) 本文中には、実際に見たのではない情景をえがいた一文があります。その一文をさがし、最初の五字を書きぬいて答えなさい。

（①）
（②）

練成問題

- 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

- (1) 関の山^{II}せいいっぱい。
イチモツ^{II}たくらみ。
- (2) 線①「私たち」が指している人物名を、本文中からすべて書きぬいて答えなさい。
- (3) 線③「理穂お姉ちゃんが顔をしかめた」理由として、最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。
- ア ママとパパがなかなか出かけようとしないから。
イ ママがいつも宿題のことばかり気にしているから。
ウ 豊お兄ちゃんがいつもどちらがう素直な返事をしたから。
- (4) 線④「庭の左端、椿の木の手前に、シャベルで深く穴を掘る」とあります、「私たち」は、何のためにこの「穴」を掘ったのですか。「うため。」という形で書いて答えなさい。

- (1) 線①「私たち」が指している人物名を、本文中からすべて書きぬいて答えなさい。
- (2) 線③「理穂お姉ちゃんが顔をしかめた」理由として、最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。
- ア ママとパパがなかなか出かけようとしないから。
イ ママがいつも宿題のことばかり気にしているから。
ウ 豊お兄ちゃんがママに対して反抗的な態度をとったから。
- (3) 線④「庭の左端、椿の木の手前に、シャベルで深く穴を掘る」とあります、「私たち」は、何のためにこの「穴」を掘ったのですか。「うため。」という形で書いて答えなさい。

〈江國香織 「子供たちの晩餐」より〉

(注) 関の山^{II}せいいっぱい。

イチモツ^{II}たくらみ。

(5) 線②「お小遣いを出しあって、四人で準備しておいた計画の実行日」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

□① 「計画」の内容を、「両親の留守中に」という形で、四十五字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

ため。

両親の留守中に
と
い
う
計
画
。

- ② 「計画」を実行したときの「私」の気持ちを説明したものとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。
- ア こんなことをしなければよかつたと後悔する気持ちと、これからは両親の言う通りにしようと決意する気持ちと、これからは両親の言いつけをやぶつたことを反省する気持ちと、悪いことをしてしまったという後ろめたい気持ちとが入り交じっている。
- ウ あこがれていたことが実現できて興奮する気持ちと、悪いことをしてしまったという後ろめたい気持ちとが入り交じっている。
- エ お腹がいっぱいになつて満足する気持ちと、食べ過ぎてしまつたというふゆかいな気持ちとが入り交じっている。